

社会福祉法人 エンゼル福祉会
おたけの郷
2024 年度 事業報告書

(1) . 育成

I 内部研修

WEB 研修、集合型の研修を取り入れながら法令に基づいた研修をしっかりと受講していく事ができた。また、外部への研修参加も積極的に行い、ユニットリーダーには東京都が実施するスキルアップ研修を受講したもらう事により、基本的な介護に関する知識、得た知識を広めていくためのマネジメント手法を学ぶことができた。

中途入職者に対する研修に関しては、グループ全体で実施する合同入社時研修（計 4 日間）への参加を原則とし、その後施設内において施設の理念や建物の造りなどを踏まえた新入職員研修を実施してきた。

① 各委員会主催研修

原則的には感染予防策を実施しながら集合型の研修を実施。

研修名	開催月
食中毒・感染症予防委員会	【2024 年 4 月】 ・ガウンの着用に関して ・ゾーニングに関して ・食中毒予防に関して 【2025 年 2 月】 ・感染症予防に関して ・感染予防のための手洗い 【2025 年 3 月】 ・嘔吐時の対応、
虐待防止・身体拘束廃止委員会	高齢者虐待に関する事 【2024 年 5 月】 ・高齢者虐待 増加の背景 ・虐待の種類と要因 ・令和 6 年度より義務付けられた虐待防止に関する内容 【2024 年 12 月】 ・大起グループ虐待防止／身体拘束廃止指針 ・虐待の種類と要因 ・虐待と疑われた／認定を受けた事例 ・身体拘束廃止に関する事 【2024 年 5 月】

	<ul style="list-style-type: none"> ・国が定める身体拘束の要件 ・身体拘束を実施するうえでの要件 <p>【2024 年 12 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居者の安全と尊厳 ・スピーチロックが与える影響
事故防止委員会	<p>【2024 年 7 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の事故 ・事故予防対策について <p>【2025 年 2 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬の事故について ・介護事故の種類 ・事故の原因や再発防止策のポイント
褥瘡対策委員会	<p>【2024 年 8 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皮膚の構造に関して ・褥瘡予防に関して <p>【2025 年 3 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・褥瘡対策に関する指針 ・日常的な褥瘡予防 ・多職種連携による褥瘡予防
食支援委員会研修	<p>【2024 年 9 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誤嚥性肺炎予防 ・むせ込みの種類と初期対応 ・5 期モデルについて <p>【2025 年 2 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窒息、誤嚥性肺炎の予防に関して ・安全な食事介助について ・食の構造化
看取り研修	<p>【2024 年 9 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看取りの定義 ・看取り介護とは ・看取り介護で配慮すべき事 <p>【2025 年 3 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看取り介護の流れ ・看取り期の見当 ・看取り期の変化

② 中途職員研修

2024 年度に入職した職員はグループ合同による研修（グループの成り立ちから大切にしている考え方の共有を図るために）を実施。2024 年度は計 12 名の職員が受講した。入社後は法人内の OJT システムに則り現場における指導を実施。定期的に面談を実施しながら試用期間評価を迎えるようにし、新入職員が安心して働く事ができるよう OJT を行ってきた。

II 外部研修

① グループ内選択研修

法人内で定めた書式（個別研修計画書）に則り、年間の受講計画を策定していった。

② グループ内 3 年目研修

2024 年度は受講者なし。

③ 合同管理者研修

グループ内全ての管理者が集い、管理者としての心構え等を学ぶ事ができる貴重な機会におたけの郷からは 5 名が参加する事ができた。

④ 認知症介護基礎研修

無資格者に対し認知症介護基礎研修の受講を義務化。技能実習生に関しては 6 か月を経過後、計画立てながら受講を進めていった。

⑤ ユニットリーダー研修

2024 年度は受講者なし。

III その他

① 資格取得制度、就業促進事業の活用

- ・荒川区の「介護サービス事業所 人材育成事業」を活用し初任者研修 2 名、実務者研修 1 名が研修修了となった。
- ・東京都の「介護職員就業促進事業」を活用し、2 名が初任者研修を修了した。

② 人事考課制度

年 2 回の人事考課を実施。基本的には例年通り 3 名（当該者・評価者・決点者）で実施。本人のモチベーションアップは当然だが、年 2 回の賞与にも影響を及ぼす重要な制度のため、決点者と評価者において配点の根拠を共有し、当該者が正当な評価結果となるよう努めてきた。人事考課の場だからこそ言える悩み、その他意見等を収集しながら、評価者自身の「良い部分」「仕事としての成果」「成長の度合い」「今後取り

組むべき事」を3者で話し合い共通認識とする事により、専門職としてだけでなく、組織人としての視野も広がっていている。

③ OJT教育システム

主にフロア責任者、ユニットリーダーを中心に行い、日々の業務の合間に本人成長度合いを確認するとともに、1か月目、2か月目、試用期間評価を確実に実施する事により、一人での勤務となった際も不安なく勤務ができる体制を整えてきた。また、試用期間評価の際には「夜間の救急搬送時の流れ」と「感染症発生時の対応」を加え、急変時にもマニュアルに沿って対応ができるような職員の育成に努めてきた。

④ その他 外部研修への参加

外部研修への参加も積極的に行った1年であった。

- ・認知症介護実践者研修…1名
- ・病院ではない看取り 些細な変化を見落とさない…2名
- ・特定給食施設 栄養士講習会…1名
- ・認知症ケアプログラム研修…1名
- ・次世代機器導入前セミナー…2名
- ・介護職員 スキルアップ研修 実践編…9名
- ・特定行為研修制度の概要…1名
- ・感染症講演会…1名
- ・医療機関における外国人患者対応支援研修…1名
- ・高齢者権利擁護推進事業 看護実践者研修…1名
- ・介護現場における多職種連携の重要性…2名
- ・認知症ケアの基本…1名

(2) 雇用 (採用)

I 採用状況報告

① 応募・雇用状況

2024年度は人材紹介を含めると20社を活用。うち無償型（ハローワークやホームページ等）を5媒体。その他は採用課金型としコスト削減に努めてきた。

② 応募数・面接者数・採用者数

	2024 年度	2023 年度
応募数	136 名	97 名
面接者数	51 名	41 名
採用者数	29 名	28 名

採用率	21.3%	288%
-----	-------	------

③ 外国人技能実習生

2024 年度は 3 名の技能実習生が入国～実勤務となった。グループとして N3 の試験合格は必須となるため、日本語の勉強は定期的に行ってきた。また、日本での生活で不安を感じる事がないよう、勤務開始後しばらくは定期的に自宅への訪問を行い日常生活における心配事などの聞き取りを実施。体調を崩した際は医療機関への付き添いなども行いながら、仕事だけではなく日常生活全般において支援を行ってきた。

II 事業所・職種別職員 常勤換算（職員）数（2025 年 3 月 31 日現在）

	正規職員	非正規職員	うち技能実習生	うち特定技能	派遣職員
①ユニット型特養	35.0 名	11.0 名	3.0 名	1.0 名	
②ユニット型短期	5.0 名	5.2 名	名	名	
③従来型特養	12.0 名	3.4 名	1.0 名	名	
④看護師	3.0 名	1.1 名			5.2 名
⑤介護支援専門員 (相談員兼)	2.0 名				
⑥管理栄養士	1.0 名				
⑦総務	2.0 名				
⑧居宅介護支援	3.0 名				
⑨機能訓練指導員	1.0 名				
⑩環境整備・運転		6 名			
⑪障がい者雇用		3 名			

III 新規卒業者

採用パンフレット及び求人票については、グループとして関東圏・東北圏の高等学校や専門学校に送付を行った。近隣高校には直接伺い、少しずつ関係も築けてきていると実感している。2024 年度中には 1 名の新規卒業者の採用が決定となり、2025 年 4 月より勤務を開始している。

IV 離職状況

2023 年度の退職理由は下記の通りである。

退職理由	特養	短期入所	他職種	計
身体的負担	0 名	0 名	0 名	0 名
業務内容への不	1 名	0 名	1 名	2 名

満・負担				
体調不良	2名	1名	0名	3名
人間関係	3名	0名	1名	4名
高齢のため	0名	0名	0名	0名
親族介護のため	2名	0名	0名	2名
通勤関係	2名	0名	0名	2名
結婚・出産	0名	0名	0名	0名
その他	4名	0名	1名	5名
計	14名	1名	3名	18名

	2024 年度	2023 年度
離職率	16.6%	22.7%

前年度と比較し減少。OJT システムの強化、研修受講の推奨などが減少に繋がったと感じている。今後も定着→育成の流れをしっかりと確立し、安定した運営を目指していきたい。

(3) 事業別目標評価

I 特別養護老人ホーム（従来型 40 床・ユニット型 100 床＝計 140 床）

① 稼働率

・2024 年度稼働率目標…97%

※前年比

稼働実績	94.7%	-1.2%
入院総日数	1,906 日	+654 日
空室平均	18.2 日	-2.0 日

② 入院者報告

単位：日

	肺疾患 誤嚥性 肺炎	骨折	泌尿器 疾患	脳疾患	心疾患	内臓疾患	その他 コロナ 含む
2023 年	403	47	50	22	67	277	379
2024 年	587	88	145	154	32	147	568
前年比	+184	+41	+95	+132	-35	-130	+189

③ 退居理由

理由	ユニット型	多床室	計
看取り介護	11名	8名	19名

病院（死亡）	14 名	7 名	21 名
他医療機関	7 名	2 名	9 名
在宅復帰	1 名	名	1 名
計	33 名	17 名	50 名

空床平均日数が-2.0 日となり減少したものの未だに高い数値を示している。稼働率としては前年度比-1.2%となった。入院日数は前年度比+654 日となっており、新型コロナウイルスによる入院日数の増加、また下半期に流行した感染性胃腸炎の影響も受けた形となっている。

④ 入居判定委員会

荒川区高齢者福祉課より 3 か月に 1 回発行される入居申し込み表に基づき、1 か月に 1 度入居判定委員会を開催している。判定委員会には、施設長、施設介護支援専門員、相談員、管理栄養士、理学療法士、看護師らが参加し情報を共有している。

⑤ おたけの郷への申し込み 2025 年 4 月 1 日時点 ※（ ）は 2024 年度数値

- ・ユニット型…名（109 名）
- ・多床室…名（185 名）

※荒川区は行政への申し込みとなるため、上記全てがおたけの郷への申し込みというわけではない。

⑥ 入居者の状態（2025 年 3 月 31 日現在）

平均年齢	平均介護度	最高齢者	最年少者
88.7 歳	3.6	101 歳	60 歳

⑦ 事故件数に関して（特別養護老人ホーム 短期入所生活介護）

転倒	転落	ずり 落ち	誤嚥	異食	所在 不明	与薬 忘れ	落薬	誤薬	外傷	火傷	溺水	物損	紛失	忘れ 物	他	合計
99	31	10		1		14	10	10	24			2	1		7	209

2024 年度は総事故件数が 209 件となり、転倒事故が約半数近くとなった。同じ方が複数回繰り返し転倒されている事も数件あった事から、原因分析・再発防止策の立案が課題となった 1 年でもあった。

また、薬の事故に関しても 34 件と多く、マニュアル（ルール）に則り行動できていない事から起きてしまった事故ばかりとなっており、改めてルールの順守の重要性を説いていく必要があると感じた 1 年でもあった。

転倒事故に関しては、居室内で転倒されている所を発見した事故が多く発生している事から、2025 年度は ICT 機器（センサー付きベッド）の導入を視野に入れ、未然に防ぐ事ができる環境整備に力を入れていく。

また、薬の事故に関しては「ガバナンスの強化」を施設全体として目標に掲げ、薬のみに限らず法令や施設内順守事項を確実に守りながら運営できる組織を作り上げていきたい。

II 短期入所生活介護

① 稼働率

	2023 年度	2024 年度	前年比
稼働目標（平均）	75.0%	80.0%	
稼働実績	76.1%	82.8%	+5.7%
全体新規件数	131 件	126 件	-5 件
荒川区新規件数	114 件	118 件	+4 件
荒川区利用者数	4,851 件	5,507 件	+656 件

- ・稼働実績に関しては前年度比+5.7%とはなったものの、まだまだ従来のショートステイの役割を果たしているとは言えない状況にある。夏頃にかけて上昇し年末にかけ下降するといった傾向を踏まえながら、営業活動や館内における取組を考えていきたい。
- ・質の高い、利用して良かったと思っただけのようなショートステイを目指すべく、単に外部への働きかけを行うだけではなく、内部にもしっかりと目を向けていく必要がある。より質の高いサービスを提供する事ができるよう努めていく必要がある事から、改めて研修受講や会議開催の強化に向け取り組んだ 1 年でもあった。引き続き、職員の成長、ご利用者様の ADL、QOL の向上に向け取り組んでいきたい。

III 居宅介護支援事業所

・毎月のミーティング（施設長 介護支援専門員 3 名）を必ず実施し、進捗状況や現状の確認を行ってきた。また、3 名の介護支援専門員により、法令に基づいた内容でプラン作成等を行えているか等の相互チェック機能を取り入れた事により、法令に基づいた運営ができています。

- ・年間介護給付…1,161 件（月平均 89.0 件 前年度比+0 件）
- ・年間予防給付…271 件（月平均 21 件 前年度比-34 件）
- ・年間認定調査…15 件

2024 年度当初は予防の指定を受けていく予定であったが、現時点で進行していない状況。介護給付は前年度とほぼ同数であったが、予防件数は-34 件となっている。

認定調査数に関して、新型コロナウイルス流行後は外部機関への委託がメインとな

っていたものの、2024 年度は数件ずつ件数が上昇してきている。

(4) 災害対策

I 安否確認訓練

非常災害時の職員の安否確認として、セコム安否確認システムをグループ全体で運用。2024 年度からは BCP 運用が義務付けとなる事から、改めて全職員に対して安否確認システムの説明を行った。

また、新入職員に関しては入社時にセコム安否確認への登録を実施し入社時研修の際に登録の状況を確認できるようになった。、全職員が災害時に迅速に対応できるよう訓練も含め日頃から災害への意識を高めていきたい。

II 防災・避難訓練等

① 第 1 回：2024 年 6 月 12 日～14 日

- ・昼間の火災を想定した避難訓練 参加職員約 50 名

② 第 2 回：2024 年 11 月 10 日

- ・尾竹橋町会合同避難訓練 火災発生から公園までの避難訓練 参加職員 6 名
町内の方々に実際に火災が発生した場合の避難誘導方法をお伝えし、建物から隣の避難区域への避難という流れで実施。全体で約 200 名程度が参加するという非常に大規模な訓練であったが、災害時は多くの人手が必要となってくるため有意義な訓練であったと感じている。

③ 第 3 回：2025 年 3 月 25 日～27 日

- ・夜間想定 夜間の火災を想定した避難訓練 参加職員 10 名

(5) 地域への取り組み

I おたけ祭りの実施

新型コロナウイルスにより行えていなかったおたけ祭りを 5 年ぶりに実施した。施設周辺の地域の皆様にもお声がけを行い、当日は多くの方にご参加いただいた。また、ボランティアの皆様にもお越しいただいた事で、より地域の方々との交流の場になったのではないかと考えている。

2025 年度も引き続き地域に開かれた施設となり、より多くの皆様楽しんでいただけるようなお祭りを開催していきたい。

社会福祉法人エンゼル福祉会
渋谷区かなみの杜・渋谷
2024 年度事業報告書

(1) 人材定着と人材育成

- ① 2024年度離職者数は13名。(2023年36名)退職者は2023年度と比較して減少した。減少した理由として、新規入職者に対して、適切にOJT指導が実施できるよう、おたけの郷へ体験的な研修を実施した。3か月間のOJTシステムが活用できるよう研修録の使用方法、面談の機会等を増やした。退職者は減少傾向にあるため、一定の効果が出たと考えている。引き続き、OJT指導を適切に実施していく。
- ② 2023年度週休3日制が理由に退職した職員が一定数いたことから、週休2日制のフロアを1フロア導入した。結果として、10時間勤務が身体上、私生活上合わない等を理由に退職したい旨の職員が2名いたが、週休2日制のフロアに異動し継続して勤務が出来ている。現状、1フロアのみ導入であるが、職員の話を含み取りながら他フロア導入も検討をしていく。
- ③ 委員会主催の研修会をオンライン・動画配信にて実施した。
- ④ 週1回月曜日9時より各フロア・部署がオンラインにて集まり施設からの伝達事項やフロアの悩み事、事故の共有をする時間を設けた。また、フロア会議・各委員会も適切に開催できている。

(2) 雇用について

入退職状況【年間】

			2024年度												合計
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
介護職員	正規	入職	2	1	3	0	1	0	1	2	0	1	1	1	13
		退職	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	1	5
	非正規	入職	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	4
		退職	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	2	0	6
看護職員	正規	入職	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	3
		退職	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2
	非正規	入職	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		退職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生活相談員		入職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		退職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護支援専門員		入職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		退職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
管理栄養士		入職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		退職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
フロア責任者		入職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		退職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事務 運転 清掃	正規	入職	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
		退職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非正規	入職	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		退職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全体		入職	4	1	3	2	1	1	1	3	1	2	2	2	23
		退職	1	0	0	2	1	0	1	1	1	1	3	2	13

- ① 職員数については、2024年度は23名入職し13名退職。10名増加となった。
- ② 採用について、インターネット媒体による応募が多かったが、ハローワーク、ホームページ、職員紹介など直接面接を申し込みされる方も多くみられた。2025年度は、正規職員は不足分の採用と非常勤採用を積極的に採用していく方向性。

(3) 災害等の訓練について

I 他団体との連携

- ① 渋谷区かなみの杜・渋谷には、福祉生活事務所と地域包括支援センターが併設している。そのため、
2 団体と共同して総合消防訓練を実施し、特養フロアなどの避難経路などを確認する機会を設けた。
10階建ての建物であるため、災害時の避難は階段を要することになり、人手が必要となる。そのため、車いすを使用する方の避難方法なども訓練内容に組み込んだ。

(4) 特別養護老人ホームの入居者支援の考え方

入居者の有する能力を最大限に発揮し、その方の暮らしの継続を支援します。入所者の暮らしに合わせた生活空間等の環境設定をする事で、「出来ることは自分で行う」「出来ないところは入居者同士で支え合う」といった「自助」「互助」の概念に基づいた支援を展開していきます。入居者自身(同士)が、生活の主体であり、施設の生活スケジュールではなく、入居者の生活軸を基に組み立てていきます。

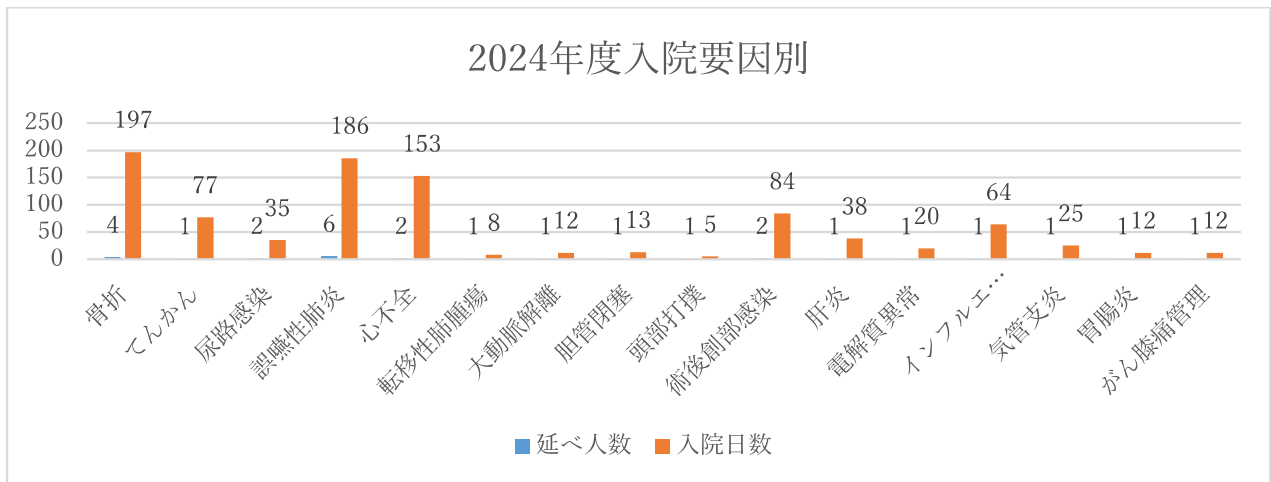
I 目標評価

- ① 年間目標稼働率 93.6% → **実績 87.1%**

2024年9月にご案内できていないユニットがあったが、人員の体制が整ったため入居者をご案内した。すべてのユニットに入居者をご案内する形となったが退所が多く(入院から医療的処置が多く療養型へ等)入所が追い付かない状態になり目標稼働率に届かなかった。2025年4月現在、空床は1床となっており、2025年度は目標稼働率達成に向けて動いている。

- ② 防げる入院の減少 入院日数 700日以内 → **987日**

2024年度入院総日数は987日。入院の内訳として、骨折による入院が197日、誤嚥性肺炎186日、心不全153日であった。入院日数の内訳にて昨年度と比較して増加してしまった項目もあれば減少した項目もあった。下半期から入院者数、日数が増加したため、フロア・医務にて入院の分析を実施していたが、フロア会議に看護師が参加して一緒に入院分析をする時間を設けた。結果としてはまだ見えていないこと、入居者の状態もあるため予防することが困難なケースもあるが、肺炎、骨折、心不全等を中心に入院日数を予防していく。



フロアごとの入院日数

2024年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5階	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	6	17
6階	0	0	0	0	8	6	8	0	27	62	40	26	177
7階	12	31	11	18	8	33	45	37	62	73	35	10	375
8階	0	0	0	0	0	19	54	13	0	0	12	0	98
9階	0	25	7	0	0	0	0	0	0	0	0	9	41
10階	18	21	0	0	1	26	40	62	19	31	21	22	261
合計	30	77	18	18	26	84	147	112	108	166	119	73	978

③ 職員育成

毎月行う研修会、委員会主催の研修については、動画配信を各個人ごとに研修を受ける形とした。また、ユニットリーダー研修参加1名、不適切なケアについての研修会3名、外部研修に参加した。研修を基に、施設内へ伝達研修を実施する予定である。

④ 看取り介護の推進

2024年度は看取り件数8件（2023年度12件）うち家族が最後の時間立ち会うことが出来たケースへ3件であった。（2023年度6件）（立ち合いを希望されたご家族5組であった）
介護からの吸状態や状態が看護へ報告があり、家族へ適切な報告が出来つつある。また、眠りスキャンを活用することで呼吸状態もデータ分析ができるため予測する上での必要な根拠となった。現在、看取り介護の加算算定には至っていないが、現状、家族への定期的な連絡、研修体制等が整備できるため、2025年度中より看取り介護加算について算定予定である。

⑤ 見守り支援機器の有効活用

現在、見守り機器としてアイホン製の見守りカメラ、眠りスキャンを導入している。見守りカメラ・眠りスキャンを活用して、巡視回数を5回→2回に減少させたり、訪室せずカメラで確認することとして訪室による入眠の妨げも予防することにも繋がった。看取り介護の方にも眠りスキャンを活

用することで、介護職員のメンタル的な不安解消にもつながっている。

⑥ 事故の削減

2024年度	総件数	転倒	転落	すりおち	誤薬	与薬忘れ	外傷	表皮剥離	伝道やけど	誤食	誤嚥	離脱	その他
4月	13件	3件	2件	2件	1件	3件	1件	1件	件				
5月	10件	3件	1件		件	件	2件	2件	件	1件			1件
6月	12件	4件			2件	1件	1件	3件					1件
7月	24件	8件	1件		1件	6件	6件	件					2件
8月	16件	3件	1件	1件	1件	2件	4件	2件			1件		1件
9月	18件	3件	3件		1件	4件	2件	2件					3件
10月	19件	6件	2件		4件	3件	4件						
11月	18件	1件	7件	2件		1件	5件			1件			1件
12月	20件	6件	1件	2件	1件	2件	7件						1件
1月	17件	10件			1件		3件	1件		1件			1件
2月	13件	5件	1件		1件	1件	3件						2件
3月	20件	4件	5件		5件	1件	4件						1件
合計	200件	56件	24件	7件	18件	24件	42件	11件	件	3件	1件	件	14件

2024年度事故件数200件。内訳は上表通り。転倒事故が一番多く、続いて外傷の事故が多く発生した。事故防止委員会を中心に、転倒・転落・すり落ちに関して、対策などに注力してきたが件数が減少するまでつながらなかった。2025年度は事故発生から検討会を実施し、事故検証・対策立案に施設全体で取り組んでいく。

⑦ 新型コロナウイルス感染症予防

感染症対策を日常的に継続的に実施した。ガウンテクニックについては、職員全体へ実施訓練を実施し、看護師を中心にゾーニングの勉強会を実施した。2024年7月、2025年1月にフロアにて新型コロナウイルス陽性者が判明したが、他フロアへの感染は予防でき、クラスターを予防することは出来た。

(6) 高齢者在宅サービスセンターにおける利用者支援の考え方

利用者が「尊厳と自立」に満ちた生活を送るため、安心して利用できる信頼度の高い介護サービスを提供する。

利用者一人ひとりの人格を尊重し、様々な疾病を患い介護が必要な状態になっても、利用者自身の「意思」を汲み取り、そして可能な限りその「意志」を尊重し、自己決定に向けた支援を行う。利用者の住み慣れた地域及び居宅での生活が安心して継続できるよう、日常生活で必要となる動作の機能回復に繋がる活動を提供し、自立支援・在宅生活の継続に向けたサービスを推進し、ご家族や担当の介護支援専門員、他の居宅サービスや医療サービス等との連携や事業所内での情報共有を行い、利用者の心身機能の維持・向上に繋げることとしたい。

① 地域に認められ、安定した経営をするための稼働率の確保

I 一般型通所介護

目標稼働率 63.0% → 51.2%

通所介護(一般)	定員	35	名	2024年度月別実績データ										
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
稼働日数	26	27	25	27	27	25	27	26	26	27	24	26	313	
定員数	910	945	875	945	945	875	945	910	910	945	840	910	10,955	
目標利用人数	478	507	480	530	541	512	564	554	565	598	542	605	6476	
利用実績数	442	522	427	447	456	438	456	433	479	514	520	586	5720	
平均利用者数	17.0	19.3	17.1	16.6	16.9	17.5	16.9	16.7	18.4	19.0	21.7	22.5	17.9	
目標稼働率%	52.5%	53.7%	54.8%	56.1%	57.2%	58.5%	59.7%	60.9%	62.1%	63.3%	64.5%	66.5%	63.0%	
月別稼働率	48.6%	55.2%	48.8%	47.3%	48.3%	50.1%	48.3%	47.6%	52.6%	54.4%	61.9%	64.4%	51.2%	
計画	442	522	427	447	456	438	456	440	479	514	539	586		
中止	154	91	97	110	139	130	122	111	136	188	111	148		
実施・中止 合計	596	613	524	557	595	568	578	551	615	702	650	734		
新規利用者	3	4	6	4	3	0	0	9	8	4	8	7	56	
契約解除者	0	2	7	0	1	1	3	2	1	1	4	1	23	
登録者数	64	67	71	73	66	65	65	69	74	82	76	85	71.4	
平均介護度	2.79	2.87	2.5	2.8	2.8	2.9	2.8	2.7	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	

稼働率は目標に対して80%の達成率となり未達だった。

新規利用者の受け入れを継続的に進めたものの、新規利用者による利用増加に対して利用中止による利用減少の方が上回った結果、上半期は利用実績が横ばいとなった。

下半期は近隣の通所介護事業所の閉鎖に伴う新規利用者の相談が増えた。職員の採用や業務の効率化を図った結果、稼働率を伸ばすことができた。

新しい居宅介護支援事業所との繋がりができたことで、次期以降につながるように対応していく。

○ 車両事故について

- ・ 2024年度に通所介護事業所の送迎に掛かる車両の運行において車両事故が11件発生した。8月にはブレーキとアクセルの踏み間違いによる重大事故により地域の方に多大なご迷惑をおかけしてしまった。
- ・ かなみの杜において過去に事故があった職員4名は11月18日と22日にコヤマドライビングスクールにて事故違反者講習を受講し、運転技術の確認と運転手各々の注意すべき点の確認をした。次年度は車両事故を0にすることを念頭に置いて各種の対策を取っていくことにする。

○ ICT機器導入支援事業への参加

- ・ 渋谷区が主催したICT機器導入支援事業に参加協力した。送迎表自動作成ソフト(DriveBoss)、インカムシステム(BONX)、アシストスーツを試験した。検証の結果、送迎表自動作成ソフトについて使用した際の効果が特に高いと認められた。

II 認知症対応型通所介護

目標稼働率 20.5% → 14.8%

通所介護(認知症対応型)	定員 12名												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日数	26	27	25	27	27	25	27	26	26	27	24	26	313
定員数	312	324	300	324	324	300	324	312	312	324	288	312	3,756
目標利用人数	31	32	45	45	58	57	71	72	81	84	95	94	766
利用実績数	47	50	49	43	48	38	43	45	45	50	47	49	554
当日キャンセル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
目標平均利用者数	1.2	1.2	1.8	1.7	2.2	2.3	2.6	2.8	3.1	3.1	4.0	3.6	2.6
平均利用者数	1.8	1.9	2.0	1.6	1.8	1.5	1.6	1.7	1.7	1.9	2.0	1.9	1.7
目標稼働率%	10.0%	10.0%	15.0%	14.0%	18.0%	19.0%	22.0%	23.0%	26.0%	26.0%	33.0%	30.0%	20.5%
月別稼働率	15.1%	15.4%	16.3%	13.3%	14.8%	12.7%	13.3%	14.4%	14.4%	15.4%	16.3%	15.7%	14.8%
新規利用者	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
契約解除者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
登録者数	3	3	3	3	3	3	3	3	5	5	5	5	3.7
平均介護度	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.9	4.9	4.9	4.9	4.6

認知症対応型の利用実績は横ばいの結果となり、未達だった。

利用希望の相談件数が少なかった。

次期以降で稼働率を大きく改善していく必要がある。積極的な営業活動など必要な対策を取る。

III 総合事業通所型サービスA

目標稼働率 56.7% → 14.2%

通所介護(サービスA)	定員 20名												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日数	22	23	20	23	22	21	23	21	20	20	20	21	256
定員数	440	460	400	460	440	420	460	420	400	400	400	420	5,120
目標利用人数	132	161	160	207	220	252	322	294	280	280	280	294	2882
利用実績数	61	70	67	74	61	61	62	57	58	56	41	59	727
当日キャンセル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
目標平均利用者数	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	11.3
平均利用者数	2.8	3.0	3.4	3.2	2.8	2.9	2.7	2.7	2.9	2.8	2.1	2.8	2.9
目標稼働率%	30.0%	35.0%	40.0%	45.0%	50.0%	60.0%	70.0%	70.0%	70.0%	70.0%	70.0%	70.0%	56.7%
月別稼働率%	13.9%	15.2%	16.8%	16.1%	13.9%	14.5%	13.5%	13.6%	14.5%	14.0%	10.3%	14.0%	14.2%
新規利用者	0	1	1	0	0	0	0	3	2	0	0	0	7
契約解除者	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3
登録者数	19	20	21	20	20	20	20	22	24	24	24	24	21.5

総合事業の実績は横ばいで推移した。

一般通所介護と認知症対応型通所介護の新規利用者受け入れを進めていくことに注力している。

② 困ったときに頼ってもらえる事業所づくり

地域のニーズに合わせて事業所としてできる限りの対応を取って運営を進めた。

特に医療依存度の高い方は近隣のデイサービスから利用を断られることもある。インスリン注射が必要な方（1名）、経管栄養による栄養剤の注入（2名）、バルーン留置カテーテル（2名）やストマーを装着されている方（1名）を断ることなく受け入れた。

医療機関との連携についても積極的に行っており、ケアマネージャーと確認を取りながら医療機関の医師に連携することで利用者の容体悪化に対して早期に発見することができた事例もあった。

また、認知症実践者研修修了者を2名増員することができた。その職員が中心となって対応の方法を検討したことによって認知症を抱えている方でも認知症の周辺症状を発現させることなく穏やかに過ごすことができた。

いずれの対応についてもケアマネージャーと連携をすることを意識した。

引き続き医療依存度の高い方と認知症を抱えている方への対応力の向上に注力していく。

IV 居宅介護支援事業者

① 給付管理件数 30 件/月（介護予防（遁減率 1/3 含む）毎月達成

2024 年度を通して介護・予防合わせた月平均の給付管理件数は 32 件と目標達成となった。R6 年 9 月に事務職員の採用による事務作業の負担の軽減、業務の効率化が図れたことが要因となった。

② 認定調査、年間 200 件達成

2023 年度の認定調査の実施件数 199 件を見込んでいたが、2024 年度は 179 件、月平均 15 件の実施。クレーム、苦情なく安定した事業運営となった。

③ 内外部監査等において指摘事項が存在しない事業所の運営

R6 年 12 月の内部監査では、この 4 月から法令上義務化された研修・訓練、委員会等に関する指摘事項が散見される 34 件の指摘がある結果となった。改善に取り組み信頼できる事業所の運営を目指す。

2024 年度 居宅介護支援事業所実績

介護給付件数	人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
目標給付数	1	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27
2024給付管理件数	1	28	27	26	25	29	31	33	33	33	33	33	34
予防/地域支援事業													
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2024委託費請求件数	1	6	7	7	8	6	7	7	6	6	5	5	5
介護/予防合計常勤換算数													
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
目標給付数	1	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
2024一人当り実績数	1	30.0	29.0	28.0	27.0	31.0	33.0	35.0	35.0	35.0	34.0	34.0	35.0
認定調査													
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2024認調委託件数	1	12	23	14	12	8	11	14	13	20	23	12	17

V 介護予防総合事業（元気すこやか事業）

渋谷区からの委託事業であり、創作活動や運動などを行う講座を開催し、高齢者が要支援・要介護状態になることを予防し、高齢者の健康づくりを促進するものである。渋谷区内に住所を有する 65 歳以上で、自分で通所可能な方が対象。

特段、問題なく 2024 年度を経過することが出来た。新たに、オンライン講座も増え、新規の講座開設などもあり順調に事業は経過している。

- ・運動講座

エアロビクス、ヨガ、健身操、太極拳、ピラティス、ポールウォーキング、健康体操など

- ・文化講座

英会話、詩吟、書道、水墨画、水彩画、コーラスなど

① 一般社団法人 SmileSpirit との連携での事業（渋谷区委託事業）

2021 年 6 月上半期、下半期に分けて事業実施。かなみの杜職員と一般社団法人 SmileSpirit（渋谷区内でシニアチアダンス等の活動をしている団体一部委託）と連携して実施。緊急事態宣言やまん延防止の期間について渋谷区と協議し開催を控えた時期もあったが、大きなトラブルもなく 1 年を経過することが出来た。